

■コメント

1. 腸管出血性大腸菌感染症

1件(O157)の報告があり、今年の累計は9件となりました。例年、10月ごろまでは多発する傾向にあるので、注意が必要です。

(次頁参照)

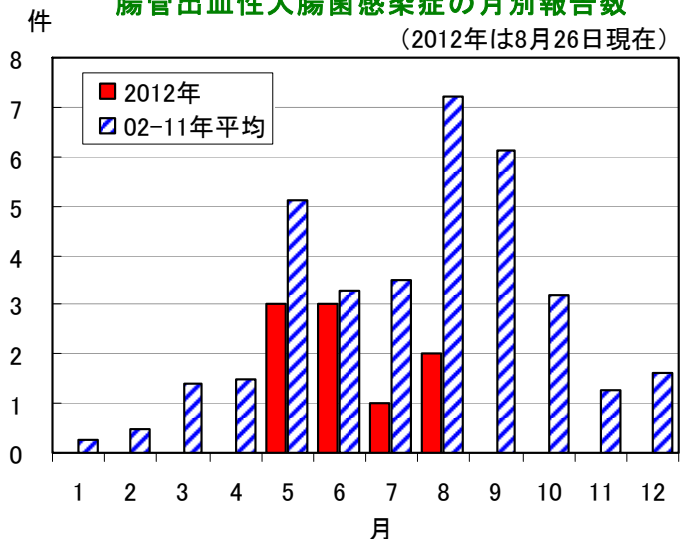
2. ヘルパンギーナ

定点当たり1.04人とほぼ横ばいとなっています。体調管理に注意するとともに、引き続き手洗いなどの感染予防対策を徹底しましょう。

前週(第33週)は、お盆期間中の医療機関休診の影響があるため、第34週の疾患の増減の評価及び「定点把握感染症報告状況(週報対象)」(下表)の発生記号の表示は、前々週(第32週)との比較で行っています。

腸管出血性大腸菌感染症の月別報告数

(2012年は8月26日現在)



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注)	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注)	発生記号
インフルエンザ	-	-	0.26		ヘルパンギーナ	25	1.04	1.26	→
咽頭結膜熱	3	0.13	0.39		流行性耳下腺炎	6	0.25	0.66	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	0.29	0.44	↗	RSウイルス感染症	3	0.13	0.09	↓
感染性胃腸炎	60	2.50	3.03	→	急性出血性結膜炎	1	0.13	-	
水痘	17	0.71	0.47	→	流行性角結膜炎	3	0.38	1.10	
手足口病	6	0.25	1.25		細菌性髄膜炎	-	-	0.09	
伝染性紅斑	2	0.08	0.26		無菌性髄膜炎	1	0.14	0.08	
突発性発しん	11	0.46	0.81		マイコプラズマ肺炎	4	0.57	0.28	
百日咳	2	0.08	0.17		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	

急増減 ↑ ↓ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減

微増減 ↖ ↙ 前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減

横ばい ⇐ ⇒ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当り)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	206	女性(30歳代)・1人、女性(80歳代)・1人
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	9	女性(60歳代)・O157

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
報告数	広島市	第30週	－	9	15	71	12	4	－	21	3	55	9	4	－	6	－	1	2	－
		第31週	－	5	23	78	11	5	1	16	3	62	5	2	－	7	－	－	2	－
		第32週	－	7	17	53	14	2	1	10	－	24	4	16	1	2	－	－	7	－
		第33週	1	4	5	53	14	－	1	5	－	12	4	4	－	2	－	－	－	－
		第34週	－	3	7	60	17	6	2	11	2	25	6	3	1	3	－	1	4	－
定点当り	広島市	第30週	－	0.38	0.63	2.96	0.50	0.17	－	0.88	0.13	2.29	0.38	0.17	－	0.75	－	0.14	0.29	－
		第31週	－	0.21	0.96	3.25	0.46	0.21	0.04	0.67	0.13	2.58	0.21	0.08	－	0.88	－	－	0.29	－
		第32週	－	0.33	0.81	2.52	0.67	0.10	0.05	0.48	－	1.14	0.19	0.76	0.14	0.29	－	－	1.00	－
		第33週	0.03	0.17	0.21	2.21	0.58	－	0.04	0.21	－	0.50	0.17	0.17	－	0.25	－	－	－	－
		第34週	－	0.13	0.29	2.50	0.71	0.25	0.08	0.46	0.08	1.04	0.25	0.13	0.13	0.38	－	0.14	0.57	－
	全国	第32週	0.22	0.37	0.77	2.87	0.55	1.01	0.09	0.58	0.03	2.35	0.41	0.31	0.01	0.56	0.03	0.06	0.98	0.04
		第33週	0.25	0.30	0.57	2.22	0.45	0.65	0.06	0.46	0.03	1.19	0.36	0.33	0.01	0.59	0.02	0.05	1.14	0.07

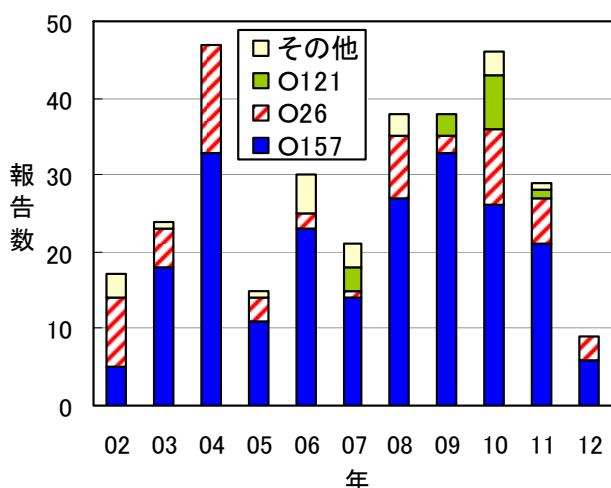
■新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
ヘルパンギーナ 発熱(39.0)	上気道炎	3	男	2012/07/17	咽頭拭い液	パラインフルエンザウイルス2型
ヘルパンギーナ 発熱(39.5)	上気道炎	1	男	2012/07/15	咽頭拭い液	アデノウイルス1型 ヒトホカウイルス
ヘルパンギーナ 発熱(39.7)	上気道炎	2	男	2012/07/18	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA2型
(急性)脳症 発熱(39.0)	脳症 意識障害 熱性痙攣	4	女	2012/07/08	咽頭拭い液 糞便	コクサッキーウイルスA2型
その他の疾患 発熱(40.0)	痙攣	6	男	2012/07/17	糞便	エコーウイルス9型
その他の疾患 発熱(39.0)	熱性痙攣	0	男	2012/07/19	血液 鼻汁(拭い液)	ヒトヘルペスウイルス6型
その他の疾患 発熱(39.0)	上気道炎 嘔吐 リンパ節腫脹	2	男	2012/07/09	咽頭拭い液	ライノウイルス

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】広島市における腸管出血性大腸菌感染症の年間報告数の推移 (2012年8月26日現在)



広島市における腸管出血性大腸菌感染症の今年の累積報告数は、9件(O157:6件、O26:3件)で例年と比べると少ないですが、今後まだ増加する可能性もあります。

全国的には、保育施設や高齢者関連施設内での集団発生も報告されており、子どもと高齢者は重症化しやすいため特に注意が必要です。

食品は衛生的に取り扱い、調理器具はよく消毒しましょう。また、乳幼児のオムツの取扱いには十分注意し、日ごろから手洗いを励行するなど予防対策を徹底しましょう。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2012年第34週(8月20日～8月26日)